

復興県民会議

被災者本位の日も早い復旧・復興を

〈発行〉東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議

〒020-0015

盛岡市本町通2-1-36

浅沼ビル 5F いわて労連内

☎ 019-625-9191

FAX 019-654-5092

eメール fukkou_ikg@fukkoukaigi.jpn.org

No.37 (2018/3/28)

7年を経て JR駅の復旧&大槌町を往く

(2月10日 宮古/前川昌人)

JR山田線が三鉄に替わって来春開通することあつて山田と大槌を歩いた。山田は新聞等で報道された通りで着々と進んでいる印象。一昨年末にこのニュースで報告したように駅前にはマーケットや本屋、レストランが開業し、町内で最大規模の災害公営住宅が建ち日常生活が営まれる。大槌町の波板駅は高台にあり整備



右手が大槌駅、左手奥が公営住宅

がはじまったばかり。サーフィンのメッカだった海岸は波が直接堤防にぶつかり、かつての砂浜が消えている(地震で地盤が東に寄り、海底が沈降といわれる)。吉里吉里駅も高台にあり同様に、この駅から下の海岸に向かって5m程度の土盛りが行われて新たな街区が整備され、自力再建の家が並び真新しい公民館が開館を待つ。海岸線は新たな堤防の建築作業中。



吉里吉里海岸堤防

大槌は死者が1千人を超える大きな被害があったところで、「ひょっこりひょうたん島」のモデルがある港。岸壁のかさ上げや港内の整備は終わり、加工場などが建つ。流された海べりの鉄橋や鉄路、駅舎の復旧が作業中。新ホームは建築中、完成した駅前広場近くに戸建災害公営住宅が広がる。しかし、ここから内陸の国道45号線に向かう中心部は更地が広がるばかりで、傷跡の深さを実感する。旧町庁舎の解体を巡る問題は、解体予算提案に

ついて「慎重な検討」を求める新たな住民団体が集会を開催していたので参加した。町長と議会に要望するとのことだが、津波被災を後世にどのように伝えるかを考えるうえで、貴重な問題提起であった。どこの被災地であれ復旧への意見の違いはある。二者択一で解決できないこともある。7年を経てなお残されている課題は、「公約」一点張りでは解決しない、自治体の長として禍根を残すことは避ける手はずを探究して欲しいとの感想を持った。（編注：解体費用を含む補正予算は3月15日町議会で可決された）



左手から新交流施設、公営住宅、旧庁舎

被災者支援の継続・拡充を



波からの復興の軌跡―野田村のあゆみ」と題して記念講演。震災の教訓と支援の継続を訴えました。シンポジウムでは、コーディネーターを岩手大学特任研究員の船戸義和さんに務めて頂き、城内地区地域づくり協議会元会長の外館四郎さん、新町町内会長の中野大六さん、野田村保育所主任保育士の茂石阿子さんと保育士の澤里彩さんが報告。外館さんは、「土地区画整理事業で土地所有者が10回以上会議をもって計画に反映させた、空き地の利活用に支援を」と訴えました。中野さんは避難所・仮設住宅団地を経て高台団地に移転し新たに結成された町内会の運営と、災害公営住宅の払い下げ価格が高騰している問題を指摘しました。茂石さんと澤里さんは、毎月の避難訓練が奏功し園児全員を無事避難させたこと、高台に再建された保育所は村から避難場所に指定され物資の備蓄をしていることを報告。つどいには、来賓として全国災対連から笹渡義夫代表世話人（全国農民連会長）と日本共産党の斉藤信県議からあいさつを頂きました。

＝野田村で7年のつどいに130人参加＝

3月17日（土）野田村総合センターにおいて東日本大震災津波7年のつどいを開催し県内各地から130人が参加しました。

地元の「なもみ太鼓の会」の勇壮な太鼓で始まり、野田村長の小田祐士氏が「東日本大震災・津

メッセージ

岩手県知事	達増拓也様
自民党県連	千葉 伝様
民主党県連	黄川田徹様
自由党県連	小沢一郎様
久慈市長	遠藤譲一様
滝沢市長	柳村典秀様
花巻市長	上田東一様
奥州市長	小沢昌記様
一関市長	勝部 修様
陸前高田市長	戸羽 太様
洋野町長	水上信宏様
岩泉町長	中居健一様
普代村長	桎屋伸夫様
紫波町長	熊谷 泉様
ふくしま復興共同センター	

斉藤富春様

お知らせ 5月9日（水）被災者本位の復興を求める国会行動